

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
経営学部経営学科	前橋 明朗	2024年 5 月 1 日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

前期担当科目:

【経営学部】

経営学総論A(経営学科)*代表教員(2回分を担当)

経営学総論A(スポーツマネジメント学科)*代表教員(2回分を担当)

企業と法A(経営学科)

会計実務演習

現代企業論A(スポーツマネジメント学科)

フィールドワークB

研究ゼミナール3(経営学科)

研究ゼミナール3(スポーツマネジメント学科)

研究ゼミナール5(経営学科)

研究ゼミナール5(スポーツマネジメント学科)

【経営学研究科】

<博士前期課程>

経営学特別演習Ⅰ

経営学特別演習Ⅲ

税法特論Ⅰ

企業論特論Ⅰ

財務管理論特論Ⅰ

インターンシップ演習

<博士後期課程>

研究指導

税務会計論特殊研究Ⅰ

企業論特殊研究Ⅰ

後期担当科目:

【経営学部】

経営学総論B(経営学科)*代表教員

企業と法B(経営学科)

税法

現代企業論A(経営学科)

現代企業論B

経営実践講座(スポーツマネジメント学科)
経営実践講座(経営学科)
インターンシップ(企業)経営学部・人間文化学部
研究ゼミナール2(経営学科)
研究ゼミナール3(経営学科)
研究ゼミナール3(スポーツマネジメント学科)
研究ゼミナール5(経営学科)
研究ゼミナール5(スポーツマネジメント学科)

【経営学研究科】

<博士前期課程>

経営学特別演習Ⅱ
経営学特別演習Ⅳ
税法特論Ⅱ
会計学特論Ⅱ
企業論特論Ⅱ
財務管理論特論Ⅱ

<博士後期課程>

研究指導
税務会計論特殊研究Ⅱ
企業論特殊研究Ⅱ

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

実務家(税理士)でもある私の教育(講義・演習)理念は、企業経営に係る理論と実践を密接にリンクさせることにより、学生たちが将来において、地域経済に貢献できるよう実践力と問題解決能力を養うことである。そのために、私の税務実務における豊富な経験を活かしながら、学生たちが基本的な経営(及び会計・税法)理論を学ぶだけでなく、実社会で必要とされる応用的且つ実践的な知識(及びスキル)を身につけられるよう心掛けている。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

1. 実務経験を活かした実践教育:
単に学問的な経営理論(知識)を伝えるだけでなく、当該理論が実務においてどのように応用されているのかを、実務経験に基づいた事例を織り交ぜながら具体的に学ばせている。

2. 問題解決能力の育成:
実践的な問題解決能力の涵養に重点を置き、問題を多角的に分析し、実現性の高い解決策を生み出す能

力を磨かせている。実務経験に基づくケーススタディや起業家（アントウルプレナーシップ）教育を通じて、経営現場において有益となる知識・技術の習得を図っている。

3. 持続的学習の重要性：

学生には、変化の激しい現代社会に鑑み、卒業（または修了）後も学び続ける姿勢を持つことの重要性を説いている。とりわけインターンシップ（会計事務所等）により、実務家として継続するための要件（知識・技術の不断の更新）について強調している。

4. 学生中心の学びと社会教育の融合：

可能な限り学生個々の学問的関心や将来の目標に応じた指導を行なっている。また、実務経験に即したガバナンス教育を強化することにより、学生が地域や社会に対して責任ある行動を取るべき旨の必要性を説いている。さらに、地域・社会貢献がキャリア形成にどう役立つかを示す教育を行い、学生が自分の将来（職業人生）と当該貢献意識（及び活動）を結びつけて考える機会を提供している。

5. 社会環境の変化に応じた学習機会の提供：

コロナ禍時（全遠隔開講）に作成した大量の講義動画（講義スライド及び講義ノートに基づく）をLMS（WebClass 及び Microsoft-stream）を用いて適宜（再編集を施しつつ）提供している（対面講義と併用）。当該動画は基本的に視聴期間無制限であり、従って学生個々の実状に合わせた学習（主に復習）が可能となる。ところで、税理士としての私の主たる指導分野である「租税法」は、「一読して難解、二読して誤解、三、四がなく、五読して不可解」と揶揄されるほど複雑な体系をなしている。対面講義にあたっては、つとめて平易な解説を心掛ける一方、簡にして要を得た動画による反復学習により、かかる苦手意識の払拭を促している。

【成果】（その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど）

総じて、学生の学習効果を高めることができたと思料する。

以下は「講義評価アンケート」のコメント（自由記述）の一部である。

- ・資料が分かりやすくて良かったです。
- ・毎回の講義で資料があり知識を増やすことができました。
- ・毎回異なる視点による講義を受けることで経営について多くの知識を取り入れることができたと思います。
- ・説明文（作成）の課題が毎回出たので、知識を高められた。
- ・楽しかった。
- ・授業のパワーポイントなどが何度も見返すことができ、復習がしやすかったです。
- ・とても勉強になりました。
- ・論文作成にも役立つことが出来る授業で、大変勉強になりました。パワーポイントの作成は大変でしたが、いい経験になりました。

【目標】(今後どうするか)

学生からは資格取得(簿記検定や税理士(科目)試験など)に直結する(役立つ)内容を扱ってほしい旨の要望が多い。こうした声に応えたいのはやまやまだが、当該受験勉強は基本的に暗記型であり、その意味において講義・演習(及び実務)とは性格を異にしている。

私はこれまで、実務領域の繰り返しである「習うより慣れよ」を横に置き、企業の経営判断・行動はどのような理論に基づきなされるものなのかについて、丁寧に講義してきた。そのうえで単なる勘や経験(ないし惰性)に偏らない会計・税務実務の知識・技術を客観的且つ分析的に理解させる力を習得させてきた。

このような講義・演習スタイルを、いかに資格取得に資するものにしていくかが、今後の大きな課題である。